

2023 第61号

千葉支部だより



J・A・C



令和5年4月発行

発行元（公社）日本山岳会千葉支部  
〒285-0837

佐倉市王子台 6-38-4 松田方

発行者 松田 宏也

編集者 小川 和敏

E-Mail cib@jac.or.jp

（表紙の絵）

「東山・慈照禅寺」（銀閣寺）

水彩画 小菅 一弘

「もう、ええかげん、ええのではなからうか！」

支部長 松田宏也

コロナ禍に巻き込まれ、はや3年。皆さんにとっては山に行く喜びが「失われた3年」であったと言っても過言ではないだろう。普段は感じぬ「行動の自由」なるものが、未知なるウイルスへの不安と恐怖でがんじがらめの軟禁生活に一変した。動けるのに動けない、友と語らうことも憚られる鬱蒼とした社会の空気。ましてや、酒を酌み交わし、山に行こうものなら、なんだか厳しい校則を破って遊んでいる自分がいるような思いをした方も多し事だろう。

けれども、「もう、ええかげん、ええのではなからうか！」 政府発表では今年の5月には、第5類となりインフルエンザ並になるらしい。かと言って、インフルエンザ並だから安心というわけではないが、この3年でコロナの実態と防衛策がわかってきたのだから、相手が分かれば付き合い方もあるというものだ。まさにWithコロナ時代の本格到来であるが、うれしいのは以前のようによけいな気を使わぬようにはなることだ。街でも山歩きでも常時マスクをつけねばならぬ窮屈さがなくなるだろう。ソーシャ

ルディスタンスという言葉も聞かれなくなるはずだ。インフルエンザ感染予防と同様に、熱が出て咳をしている人には近づかず、電車のような狭い空間では自己防衛でマスクをつける程度で良いだろう。すっかり定着したマスクと手洗い習慣はインフルエンザ予防としては有効なものに違いない。

そろそろ、引き籠りを辞めて、外に出て昔のように「行動の自由」を取り戻そうと思っている方は日に日に増えていこう。ようやくコロナトンネルの出口が見えてきたようだ。輝く新緑を求めて残雪の山に、まばゆい陽光あふれる夏山では可憐な花との久しぶりの対面にと、その光景を思い浮かべるだけでも心は浮き立つものだ。

失われた3年の虚しい思いを胸に、これからは大いに山の喜びをかみしめたいものだ。

学んだWith コロナの生活様式を忘れずに・・・

Let's enjoy the mountains like the old days!

[ 目次 ]

・会友の期限告知 (再掲載)	p 2
・山行記録 忘年山行・白狐峠から嵯峨山、初冬の山歩き・赤城山	p 3
・支部総会での講演 初級登山教室関連 三田 博	p 4
・自然学クラブ巡検一高尾山 三木 雄三	p 5
・山行記録 鴨川の袋倉川沢、伊予ヶ岳・東尾根から、好天の東天狗岳、安達太良山・くろがね小屋まで	p 5~7
・登山道の整備 「房総の山復興プロジェクト」	p 7
・山行記録 鋸山でガイドダンス山行、三つ峠・金ヶ窪沢大滝 アイスライジング、富士山と子牛に出遭える大野山、	p 8~9
・こんにちは 加藤 剛	p 9
・あの日の山 スペイン巡礼道 岩尾 富士夫	p 10
・山行記録 鳳凰三山で雪山テン泊デビュー、静かな冬の屋久島、湯河原・幕山「梅の宴」	p 11~ p 12
・ウォーキングクラブ活動報告 宇津木 仁典	p 12~13
銚子グルメとジオパーク、新宿御苑・明治神宮及びその周辺、潮の香・海の幸を味わう房総南端	
・支部山行の予定	p 13~15
・事務局からのお知らせ	p 15~16

● 会友の期限告知 ●

会友の期限に関する節目の時期なので、前号告知と同内容を以下に再掲載します。

**2023年4月からは全ての会友の期間は2年間とする。(現在入会している会友は2025年3月まで)**  
 会友の期間終了後は会員もしくは準会員を選択してもらおう。なお、70歳以上の会友は特別会友として対象外とする。また、70歳以下でも山岳活動の講習等ができる方も対象外とする。

(年齢は2025年3月末時点とする)

(参考)会員、準会員、会友の特典

	正会員	準会員	会友
入会金	20,000	5,000	×
会費	12,000	6,000	×
支部会費	1,500	1,500	3,000
会報「山」	○	○	×
山岳	○	有料	×
千葉支部だより	○	○	○
本部講習会	○	○	×
全国支部懇談	○	○	×
総会議決権	○	×	×
支部役員任命	○	×	×
支部山行リーダー	○	△	×
ホームページ閲覧	○	○	○
会員専用ページ	○	○	×
晩餐会出席	○	○	×

\* 青年正会員(26歳未満)は入会金免除、会費6,000円

\* 準会員の期間は3年間

(26歳未満の入会金は免除、会費は6,000円)

JAC会員は、ステータシンボルであり、世界の山への道が開けることに!

50歳未満は、千葉支部への入会金と年会費2年間分を免除します!

千葉支部への入会には経験・年齢の制限は設けていません。身近な人で登山経験者や登山を始めたい方がいましたらご紹介ください。入会希望者向けの「お試し山行」に参加できます。日本山岳会への入会もご相談に乗ります。特に若い方が入会しやすいように、50歳未満の新入会員は入会金1,000円と2年間の年会費(正会員1,500円または会友3,000円)を免除します。

忘年山行・白狐峠から嵯峨山

三田 博

山行日/天候：12月10日～11日（晴れ）  
 参加者：L三田博、松田宏也、山崎完治、岩尾富士夫、  
 上村紀子、三田芳江、三品京子、梶田義弘（8名）

上白狐の集落の「うぐいす橋」に駐車、白狐川の支流沿いを30分弱で登ると「房総キャニオン」と呼ばれる採石場跡に出る。荒々しい風景はまさにグランドキャニオンのよう。ここからピンクテープを追って郡界尾根に乗る。富津市と鋸南町の境界を忠実にたどりアップダウンを繰り返す。2019年台風の倒木がまだあちこちに残る。途中、チェーンソーで登山道整備している男性と出会い話し込む。休日を使い倒木を片付けているとのこと。個人ボランティアでひっそりと作業してくれているのだ。

見晴らしの良い送電線鉄塔の下で昼食を取り、ひと登りでスイセンピークを經由して嵯峨山（315m）山頂へ。下山は釜ノ台集落の廃屋の庭先へ降り、林道東奥野線を歩いて駐車した場所へ戻る。

その日の晩は、房総 Base で忘年会。スーパーで食材を買い出して鍋料理と刺身ほか女性陣の手料理で賑やかに酒盛り。来年の山行予定など話も尽きず、毎度の事ながら遅くまで酒宴は続いた。コロナも落ち着くであろう次年度の忘年山行は、宿を借りてみんなで集まりたいものだ。



初冬の山歩き・赤城山

三田 博

山行日/天候：12月18日（曇り晴れ）  
 参加者：L三田博、松田宏也、坂上光恵、斎藤米造、  
 三品京子、三田芳江（6名）

車2台で赤城山・大沼湖畔の駐車場へ。雪山始めを期待してきたが、雪が積もるのはもう少し先ようだ。まだ寒さに慣れていないせいか、手袋をしていても指先がじんじんと痛い。

黒檜山登山口より入山。ところどころ凍りついた急坂をゆっくり登る。時折り雲の間から陽が差すと、青空に霧氷が輝き、



とてもきれいだ。この寒さでも、百名山なので登山者はけっこう多い。標高差約

500mを2時間ほどかけて稜線の分岐に到着。黒檜山の山頂で、風を避けて昼飯にする。食事した後は、なだらかな稜線を歩き、駒ヶ岳を目指す。山の斜面は霧氷の木々で、白い花が一面に咲いたようだ。南方向に見える小沼（この）は水面が半分以上凍っているように見える。大沼の水面が凍りつくのももう少しだろう。足元が凍っている登山道を慎重に下り、駐車場に戻った。



ガイドンス山行

入会間もない人や入会を検討している人のために、日本山岳会や千葉支部の事をよく知ってもらおうという趣旨で「ガイドンス山行」を始めることにしました。その第1回目を1月22日に鋸山で行いました。（P8に掲載）今後も、3か月ごとにガイドンス山行を開催する予定です。4月には千葉県富山の富山、7月には奥多摩での開催を考えています。既に入会している方も歓迎です。是非、奮って参加いただければと思います。

## ● 支部総会での講演 ●

日時：5月7日

場所；千葉市生涯学習センター

※ 詳細はお知らせに掲載

千葉県内のいろいろな山に登ると、驚かされるのがヤマビルの多さです。ちょっと歩いて休憩時に靴のまわりをチェックすると、あの独特の形態の虫がいます。噛みつかれても傷みが無いので気付かないことが多く、気がついた時は血が止まらなくなっています。後々も、痒さが残ったり結構厄介なものです。

このような状況にある千葉県。日本山岳会千葉支部の総会後の講演に「ヤマビル・ヤマダニ」に関するものを企画しました。講師は、ヤマビルについて長年調査研究をなされている群馬支部会員の坂庭浩之さんをお願いしました。いろいろと貴重なお話が聞けることと期待しています。

### 講師紹介

#### 坂庭浩之さん

群馬県で生まれる。

昭和58年度に北里大学獣医学科に入学する。

昭和63年度に同大学を卒業する。

平成元年度に群馬県庁に入庁し、動物愛護行政、食品衛生行政などを勤める。

平成16年度から日本獣医畜産大学大学院野生動物教室に研究生として入学し、野生動物について改めて学ぶ。

平成18年度から群馬県庁自然環境課に異動し、野生動物全般の行政運営を行いながらクマの麻酔放獣やサル対策などの論文を執筆する。その中で、ヤマビルの最初の論文を執筆する。

平成23年度から現職の林業試験場に異動し、シカの行動・捕獲技術研究にあわせ、ヤマビルの調査を継続的に行う。

群馬県内のヤマビルの分布調査を2016年、2022年に行ないヤマビルの急速な拡大を明らかにする。



## ● 初級登山教室を開催 ●

千葉支部では令和5年度に会員・会友向けに初級登山教室を開催することになりました。役員が講師を務め、下記のカリキュラムと日程で行います。机上講習と実技がセットになっていますが、どちらかだけでも受講できます。また単発で受講することもできます。テキストには、JMSCA（日本山岳・スポーツクライミング協会）の「夏山リーダー」テキストを使用します。この機会にぜひ登山の知識を学んでください。

受講料無料ですが、テキスト代1,000円となります。その他にコピー代等の実費を徴収します。

### 【登山教室カリキュラムと日程】

※ 机上講習の場所は、津田沼のヨシキスポーツYYルーム。14:00～16:00です。

4月22日（土）机上①開講式、山登りとは / 4月23日（日）実技①房総・富山

5月20日（土）机上②山のマナーと計画 / 5月21日（日）実技②高尾周辺

6月17日（土）机上③読図と地図アプリ / 6月18日（日）実技③中央線沿線または丹沢

7月22日（土）机上④山の天気 / 7月23日（日）実技④奥多摩

9月2日（土）机上⑤山の病気と救急法 / 9月3日（日）実技⑤大菩薩嶺

9月30日（土）～10月1日（日）実技のみ⑥ 山で泊まる、食糧計画（場所未定・山小屋泊）

※ 問合せと申込み先：cib@jac.or.jp 事務局長・三田まで



自然学クラブ巡検

三木 雄三

●第18回巡検 断層の高尾山6号路と初詣

2023年1月21日(土) 晴れ

参加者：新井好夫、稲川由紀・駿太、宇津木仁典、鎌谷繫、黒住清美、塩塚生二、高橋琢子、竹園清隆、中場義則・久美、吉田望、吉永英明、吉野聡、茂呂よしみ(東京多摩支部)、吉川三鈴(同)、三木雄三(L)。



昨年春の日影沢林道巡検で、標高600メートルに満たない高尾山は、実は植物の種類1500種を上回り、日本全国に生息する植物の約30パーセントを占める「花の山」。さらに地層は小仏峠に因んだ「小仏層」と呼ばれ、1億1200万年～7400万年前の中生代白亜紀の「大陸棚の時代」に海底の底深く堆積した砂や泥が造山運動で盛り上がった「奇跡の山」だったことを学んだ。

今回は、6号路で「奇跡の山」をつくりあげた断層を巡検し、山頂から晩秋に歩いた相模湖構造線対岸の石老山を眺め、高尾の天狗に初詣というワクワク旅だ。

午前10時に集合。さっそく6号路を目指す。左側に連なる露頭は粘板岩で泥岩が変成した岩石だ。「スレート」とも呼ばれ、屋根の瓦にも使われた。

歩いた清滝川の谷沿いの道は、断層で、弘法大師が修行し

た伝説があるが、登山道から眺めると、右の洞窟は粘板岩、左は砂岩で出来ている＝写真＝。

海外からの観光客がぞろぞろあるいている。さらに進むと、粘板岩の巨大な露頭があり説明版には「書道の硯(硯)」に利用したとあった。谷を詰めると、年寄りには地獄の階段がまっている。途中で休みながら386段を上り切ると、大展望がまっていた。なにしろ江の島、光る海の上は房総半島まで広がり、新年早々幸先

よし。薬王院に寄り、天狗にこっしの山行の無事を祈る＝写真＝。

東京多摩支部から参加した吉川三鈴さんは「身近な高尾山にそんな地球の歴史があるとは知らなかった。勉強になった」と話していた。



鴨川の袋倉川で沢登り

三田 博

山行日/天候：12月24日(晴れ)

参加者：L三田博、三品京子、竹内進(3名)

冬になると房総の沢をあちこち歩いてみたくなる。前シーズンに筋肉を傷めて途中撤退した鴨川の袋倉川東俣を再訪した。長狭地区火葬場近くに車を止め、ゲートを抜けて林道を歩く。途中の「さんさの滝」の落ち口に降り立って逆行スタートする。この滝は釜も深く、登れそうもない。林道が交差するボックスカルバートをくぐり抜けると、すぐに3段20mの滝と堰堤と一緒に4m滝が続く。どちらも気を付けて登れば問題ない。

その上流はナメが続いてよい雰囲気。途中から用水路のようなものが出てきて、ポンプ小屋があった。今でも取水しているのだろうか。最後、急斜面を詰めると県道81号の

清澄寺入口に飛び出した。ここから関東ふれあいの道を少し歩き「大見山347m」別名「鹿路峰」(ろくろほう)に登る。山頂は三角点だけでほかに標識はなかった。以後赤テープも全くなく、地図を頼りに尾根を南下、朝歩いた林道へ戻った。



●房総の沢は冬がシーズン

一般的に沢登りは暖かい季節が適期です。冬の丹沢や奥多摩は水が冷たく、万が一水に落ちたら命にかかわることもあります。それに比べ、房総の沢は冬でも比較的温暖で、水量も少ないのでシャワーを浴びることもほとんどないです。ヤマビルも枯葉の下でおとなしくなり、ツメの藪も枯れるので歩きやすくなります。そんな事から他県の沢屋さんも冬は房総に通う人が多いです。(三田 博)

伊予ヶ岳・東尾根から北尾根

三田 博

山行日/天候：1月8日（晴れ）

参加者：L 三田博、小川和敏、三品京子、三田芳江、竹内進、加藤剛（6名）

タイム：東尾根入口 11：00→東屋 11：45→山頂 12：00  
→桜の広場 12：30→東尾根入口 13：00



房総 Base から伊予ヶ岳東尾根の入口まで歩いて50分ほど。東尾根コースは地図にも載っていないマイナールートだ。林道からの入口に「熟達者向き」と看板があり、文字

通り険しいコースである。途中ピンクテープとロープが何か所もあるが、急登と痩せ尾根の連続する楽しいルートだ。1時間弱のテクニカルな登りをこなすと、一般コースの東屋の裏に出る。ここからは人がいっぱい。南峰直下の鎖場を登り、伊予ヶ岳山頂に飛び出す。その先の三角点がある北峰に立ち寄り、今日はさらに北尾根コースに向かう。急な下りを慎重に降りて「桜の広場」に寄って昼御飯。朝歩いた伊予ヶ岳林道と嶺岡林道を通り、房総 Base へ戻った。



天気に恵まれた八ヶ岳・東天狗岳

柳川しげよ

山行日：12月27日～29日（晴れ）

参加者：L 松田宏也 三田博 坂上光恵 柳川しげよ（4名）

タイム：27日 稲子湯温泉 12：30→しらびそ小屋 15：00  
28日 しらびそ小屋 8：30 出発→中山峠 11：20→東天狗岳頂上 13：20 →中山峠 14：20→しらびそ小屋 16：35  
29日 しらびそ小屋 8：40 出発→稲子湯温泉 10：10



稲子湯温泉からアイゼンを付けずに出発した。数日前、支部の方が麦草峠を訪れたときは大雪で阻まれ多大な時間がかかったと聞いていたので心配だったが、新雪で踏み後も歩きやすかった。歩き始めると直ぐにしらびその樹林帯に入り、雪をかぶった樹林帯の中は、まるでモンスター達のお出迎えのようだった。みどり池の看板をたよりにしらびそ小屋を目指した。この人気のしらびそ小屋は、2泊とも他の登山客はなく貸し切りだった。やかんでいただく熱かん、美味しいワインと夕食、そして山小屋なのにこたつの中で夜も更けるのを忘れる楽しいひとときを過ごした。でも、外はしばれるような寒さだった。



2日目、今日も青い空、目の前のみどり池も真っ白だった。朝食時には窓越しにリスやホシガラスも一緒に食事ができ

たのも、忘れられない光景だ。ここからは、アイゼンをはき出発した。中山峠までは、歩きやすく、風も、感じられないほど穏やかだった。中山峠を過ぎ、尾根づたいに歩くころには、風も出てきた。数年前、千葉支部の方達ときた時は、この辺から強風にあい引き返した思い出があり、今回は少しでも先に進めたらと思いを込め一歩一歩進んだ。風で雪が飛ばされ登山道は岩肌が見えている場所があり、アイゼンの爪があたった。頂上に近づくとつれ急登が続く。やはり雪山は、厳しかった。何もさえぎるものではなく、見える景色は最高のものだった。「これは、来た人でないとわからない」と仲間の方がつぶやいていた。まさにその通りだ。やっとたどり着いた頂上は凍りつくほど寒く、写真を撮ると直ぐ下山した。



3日目、しらびそ小屋自慢の美味しいパンの朝食から始まった。下山途中、サングラスをかけた犬を連れた登山者に出会った。なんとも微笑ましかった。稲子湯で熱い温泉につかり帰途した。今回しらびそ小屋でお世話になった小屋主の今井孝明さんが千葉支部の特別会友になられた。是非とも雪の無い時期にも、皆で足を運んでみたい。



安達太良山・くろがね小屋まで

三田 博



山行日/天候：1月20日～21日（曇り雪）

参加者：L三田博、三田芳江、三品京子、宮崎美智代  
（4名）



も楽しむというプランだ。奥岳登山口から約3時間でくろがね小屋に到着。ここから森林限界を超えると強風が

昨年は麓の岳温泉に泊まり日帰りで登ったが、今回は人気のくろがね小屋に宿泊して温泉

吹きまくっている。少し上の小ピークまで登って様子見をしてみたが、登れる感じではない。黒い雲が向かってきているのでサッサと小屋に戻る。小屋名物の温泉に入るが、体が冷え切っているのでお湯がメチャクチャ熱く感じる。なんとか我慢して入ると、そのうち体もなじんできた。

夜中も強風が吹いていて、風の音で何度か目が覚める。朝食を食べ、皆と相談して今回は登頂を諦め、このまま下山する事にする。小屋を出ると、昨晚からの雪が積もり帰り道はノートレース。吹雪いて前もよく見えないが、赤テープを探しながら先頭の私がワカンで踏み跡をつけ、後続はツボ足。樹林の中へ入ると風もようやく弱まった。登山者も上がってきて、やがて道は明瞭になった。

帰りは岳温泉の「岳の湯」で入浴してさっぱりした。くろがね小屋は、3月末で営業を休止して建て替えるとの事。新しくなったらもう一度訪ねてみたい。

● 登山道の整備 ●

いよいよ、房総の山復興プロジェクトの活動が始まりました。全員が、チェーンソー、手鋸、鋏、スコップ、ロープ、ピンクテープなどを手分けして携えて・・・地元の自治体、青年会などの了承を得て・・・

1月7日～8日

うさぎ年の初山行は登山道整備。房総の山復興プロジェクトの取組みであり終了後は房総Baseで新年会である。

7日は7名が参加。白狐集落を過ぎてひよどり橋の手前に駐車、嵯峨山の西にあるスイセンピークにつきあげる登山道入り口まで行くが、この東奥野林道の両側が地滑りや倒木で変わり果てている姿をみると改めて台風の勢力の凄さを感じることができる。

わかりづらい入口に道標を設置し、倒木片付け、ピンクのテープで目印をつけながら登って行った。これでこのルートは安全に通れるようになった。嵯峨山の展望台で休んでいると労山のTさんがチェーンソーを片手にやってきた。ひとりで整備にあたっているとのことだった。8日は伊予ヶ岳東尾根に登るパーティーを見送った後に、伊予ヶ岳から富山に通じる登山道の整備を3名でおこなった。道をふさぐ倒木はすでに切られていたが、通行を邪魔する枝、蔓がまだ残っていたのでそれを取り除き作業は終了。

2日間の取組みで2本のルートの整備が完了。やってみると、清々しい気分になるもんだ。

（松田宏也）



1月28日

かの有名な里見八犬伝の伏姫籠穴（ふせひめろうけつ）の駐車場に千葉県山岳・スポーツクライミング（CMSCA）3名、南房総市職員2名、千葉支部3名が集まった。

本日は伏姫籠穴が登山口となる西尾根～富山～籠穴ルートの登山道整備である。西尾根に取りついですぐの滑りやすい斜面に杭を打つ組と富山まで倒木処理をする組とに分かれ作業をおこなった。西尾根は私は初めて登るルートだが、やせ尾根でアップダウンがけっこうきつい。気が抜けないルートだ。富山頂上では展望に恵まれた。伏姫籠穴への下山口には通行禁止看板があるが、この下山ルートはすでに倒木の処理と崩壊場所の通行ができるように整備されている。看板が外されるのは時間の問題だろう。

杭打ち組と合流し整備終了となった。その後は宿泊組のCMSCAの2名とBaseに向かい作業の慰労会が始まった。（松田宏也）



整備完了！きれいになりました。

2月5日

房州アルプス鹿原林道登山口から展望台まで。

小春日和の晴天に恵まれた。

山に行く時は必ず晴天というNHKラジオ「山カフェ」のMC石丸謙二郎さんが参加のおかげかもしれぬ。

なんだかしらぬが、ありがたや〜。

登山口から100mほど行くと20mの崖崩れが現れた。急斜面に通行した気配はあるものの、いつ上部からの崩壊があるやもしれぬので山側に巻き道を作ることになった。ステップを掘りトラロープを張り、崩壊地を避ける道となった。「こりゃええわ、歩きやすくて問題なし！」私が通行できれば誰もが安全間違いない。分岐にいくとどっかい倒木がで〜んと道をふさいでる。チェーンソーがないので次の宿題となった。

登山道整備はやってみると清々しい気分となる。なんて良い日だったのだろうと実感した小春日和。(松田宏也)



倒木ぐりの石丸さん。お世話になりました。

鋸山でガイドンス山行

三田 博

山行日/天候：1月22日(曇り)

参加者：L三田博、松田宏也、三田芳江、上條誠一郎、加藤剛(5名)

入会間もない人や入会検討している人のために、日本山岳会や千葉支部の事をよく知ってもらおうという趣旨で「ガイドンス山行」を始めることにした。その第1回目を鋸山で行った。今後も3か月ごとにガイドンス山行はやっていくつもり。



浜金谷駅で集合して民家の間を通り、車力道へ。鋸山復

三つ峠・金ヶ窪沢大滝 アイスクライミング 上條 誠一郎

山行日/天候：1月18日(晴)

参加者：L松本かをる、平野直子、宮城奈々子、上條誠一郎(4名)

タイム：三つ峠裏登山口 8:30→金ヶ窪沢大滝 9:40~15:50→三つ峠裏登山口 16:30



平日に休みが取れたのでどこかに行きたいと平野さんをお願いしたところ、平野さんが所属する千葉山の会のアイスクライミングに参加の機会を得た。早朝に船橋駅で集合し平野車に乗せてもらい出発した。当初予定では小川山の唐沢の滝を登りに行く予定だったが、手前にある三つ峠の金ヶ窪沢も凍っているようなので急遽計画を変更し三つ峠へ。3時間ほどで三つ峠の裏の登山口に着いた。県営の駐車場までは凍結のため道路が閉鎖されているのでゲートの手前に車を止め、荷物を下ろしパッキングをして歩き始めた。金ヶ窪沢までのアプローチは短く登山口から40分程度で着いた。



興のボランティアが整備作業

を続けているので、登山道は歩きやすい。登山道の途中から私たち3人は「アドベンチャーコース」へ入る。最近是一般コース化しているのか、何組かの人と会う。今回は山頂には行かず、展望台で再び合流して、昼食タイムにする。下りは東京湾を眺めながら観月台コースを使った。



※個人山行

登るのは金ヶ窪沢の大滝で全長40m近くあるそうだ。大滝は昨日の写真よりも少し真ん中のあたりが溶けていたが他のパーティーもいないので登るスペースは十分に確保できた。まずはリードで一番低いテラスからトップロープを張ってもらい短めのルートでアックスやアイゼンの打ち込み方やビレイの方法などを教わった。次に二つ目のテラスまでトップロープを張ってもらい一回登ったあとビレイの実践をして昼休憩にした。

最後に大滝の一番上までのトップロープを張り登った。大滝の上からは雪をかぶった南アルプスや八ヶ岳が見えとても綺麗だった。降りてからはアバラコフをつくる練習をしたりして下山した。今回ははじめてのアイスクライミングというか初めてのアウトドアクライミングでしたがクライミングの基礎技術もままならない僕をサポートしていただきありがとうございました。





富士山と子牛に出遭える大野山

中田 彩

山行日/天気 1月22日(日) 晴れ  
 参加者：L 今井貴朗、香高真奈美、松本さゆり  
 中田彩、羽藤美代子 (5名)  
 タイム：谷峨駅 9:50→登山口 10:20→634m 標 11:20→  
 山頂 11:50・12:30→山北駅 14:45



雲はあるけど適度に日がさし、風はなく、まずまずのお天気。計画通り谷峨駅を出発、舗装路を30分ほど歩き、登山道へ。途中、富士山が大きく見えた！

頼朝手植えと伝わる桜を眺め、椿を楽しみ、すすきの原をジグザグに登りながら、高度を上げる。60分ほど上り到着した標高634m地点にはチェーンソーアート。卯年だから、ウサギ？最後のひと登りを終え、平坦な舗装路を抜けると山

頂着。丹沢が一望できる、広くて気持ちの良い場所です。今井さんが用意してくださったあったかいスープと、参加者が持ち寄ったお菓子を楽しんで下山開始。牧場に牛が！登山者に愛想を振りまく子牛が可愛かった。



その後はひたすら下り、階段が多く膝をプルプルさせながら進む。60分ほどで、舗装路に。森の道の駅、旧共和小学校から大野山を仰ぎます。結構頑張った。残りの行程はアスファルトの道を歩き、今井さんおすすめの無人販売所で甘いと噂のみかん(一袋100!)を購入し、予定通り山北駅に到着。

富士山、丹沢、美味しいお昼、お土産のみかんと、里山の良さを満喫できた山行でした。今井さん、ご一緒した皆様、ありがとうございました！



♪ こんにちは ♪



はじめまして、千葉市緑区在住の加藤剛(かとうつよし)と申します。この度、千葉支部に入会させていただくことになりました。昨年会友として参加させて頂き、四水会の飲み会から参加させていただきました。1月房総Base1泊の嵯峨山整備と伊予ヶ岳で初めて山行をご一緒出来、その際にそこで松田支部長

と三田事務局長にお声がけいただき入会に至りました。

北海道の出身で、山育ちです。中学の3年間は、羊蹄山とニセコ連峰を望む倶知安町に住んでいました。ワンダーフォーゲル部にいたことのある父が中学3年の夏、私と弟をつれて羊蹄山の一泊登山に行ったのが最初の本格的な登山と思います。頂上付近の避難小屋に泊まって、翌日のご来光を拝む計画です。降ってくるような満天の星空、避難小屋の管理人は毎朝ふもとまで走って往復して新聞を取って帰ってくると聞き驚き、翌朝のご来光に感動しました。この経験が根幹にあって、今でも山をみると胸がキュンとします。

二十代の半ばから5年ほど、仕事がきっかけで山登りを始める事になり長野と関東近辺の山を登りました。青

少年向けの冒険学校と体験教育の企業研修を行うが日本アウトワード・バウンド協会のプログラムへの参加に加えOB会での毎月の山行でした。この学校は植村直己さんがアメリカ・ミネソタ州で犬ぞりの担当をした学校で、その教育手法を做って帯広で冒険学校を作ろうとしていたことでも知られています。二十代最後の一年はこの協会の東京事務局で広報をしながら長野での研修プログラムに参加するなど山の経験をする事になりました。



その後はしばらく、山から遠ざかってゴルフばかりでしたが、2年前腰を痛めてゴルフ以外の何かもと復活したのが登山です。一番好きな山



は八ヶ岳です。山の経験はまだ未熟ですが、楽しく山行をご一緒できれば光栄です。自営業ですので、平日も活動可能です。どうぞよろしくお願いいたします。

あ の 日 の 山



スペイン巡礼道 サンチャゴ・デ・コンポステーラ 2015

岩尾 富士夫



キリスト教の三大聖地の一つサンチャゴ・デ・コンポステーラである。数百キロの苦難の巡礼である。自分探しの同行2人と私の悟り旅でもある。

● サン・ジャン・ピエ・ポー (10/31 フランス) ~パンブローナ (11/03)

夜明けに丘の古城に上がるとポーの街並みが一望できる。西の果てへと一か月の旅のスタートである。初日はゆっくりと標高をあげウントのアルベルゲ(巡礼宿)のワインで乾杯。翌日はピレネー越えて上部は強風に難儀するも、サンチャゴまで765kmの標識を過ぎてスペインに入る。レポエデル峠1430mから下ってロンセンバージェスの修道院に泊。ヘミングウェイが滞在した村をぬけメスキリッツ峠925mを越えるあたりで日本人の墓標があり冥福を祈る。ホタテ貝や黄色の矢印に導かれパンブローナに到着。翌日はアストルガまで列車で移動。

● アストルガ (11/05) ~ポンフェラーダ

夜明け前は貝殻マークをライトで探しながら慎重に進む。陽を背に西へ西へと平原地帯から高度を上げイラゴ峠1530mで大きな十字架の基に幸運を祈って名前を書いた石を積む。カンボでローマの泉を見る。市街地になりワイナリーで試飲を所望すると給油所のホースのようなものでグラスにドーと注ぐ、回し飲み、美味いとお礼を述べる。ポンフェラーダは教会に併設されたアルベルゲに泊。



翌日は休養日でローマ時代の金鉱山ラス・メドゥラスを見学。ここで採掘された金はローマの財政を支えたと言われる。世界遺産である。

● ポンフェラーダ (11/09) ~サリア

これから巡礼最難関と言われるオ・セブレイロ1320mまで700mの登りである。見渡す限りの牧草地帯である。頑張っ登り、程なくオ・セブレイロに着く。この教会は9世紀に建てられ、巡礼路最古のものである。あと151kmの標識、頑張ろう。サモスの大きな修道院に泊まる。多くの修道女がいたのだろうが、今は無人である。

● サリア (11/15) ~ベデロウソ

あと100km、道に行く。ポルトマリンである。ダムのため水没する町そのものを高台に移転し、石組の大きな教会も例に漏れない。



この辺からアジサイが咲いている。深まる秋なのね！メリデはタコ料理が有名であり、塩ゆでしハサミで切る。塩とパプリカとオリーブオイルで料理する。タコを買って宿で料理しワインで乾杯。

巡礼路

● ベデロウソ (11/21) ~サンチャゴ

モンテ・ド・ゴソに入る。晴れたり、降ったり目まぐるしく変わる天候は初めての経験である。歓喜の丘に登ると、日本スペイン交流400年記念の碑がある。二人の巡礼者の銅像がサンチャゴを向いている。こここのアルベルゲはシーズンオフで閉鎖されていた。ここで泊まる予定がサンチャゴまで行こうと丘を下り市街地に入る。何とかカテドラルに着き、オブラドロ広場に歓喜の到着(11/21)14:45;巡礼事務所で巡礼証明書の発行をしていただく。翌日、カテドラルのミサに巡礼しホタフメイロ(大香炉)で心身の穢れを落とす。

● サンチャゴ (11/23) ~フィステーラ

バスで移動する。スペイン最西端・地の果て(フィステーラ)で外海に突き出た岬で夕日を見ると幸福が訪れると言われる。太陽が水平線に近づいていく。夕日が始まる。素晴らしい光景だ。“悟りを開く”“まで至らぬが、ここまで来たんだという大きな達成感に浸ることが出来た。

鳳凰三山で雪山テン泊デビュー

三品 京子

山行日/天候：2月4日（晴れ）5日（晴れ）  
 参加者：L平野直子、三田博、三田芳江、上條誠一郎、三品京子（5名）  
 タイム：1日目 夜叉神の森駐車場 7:10→夜叉神峠 8:20  
 →杖立峠 10:40→苺平 14:20（テン泊）  
 2日目 苺平 8:10→南御室小屋 8:45→  
 薬師ヶ岳山頂 10:30→南御室小屋  
 11:45→苺平 12:20→夜叉神峠  
 15:00→夜叉神の森駐車場 16:15



登山口に到着したのは日の出前の6時。明るくなるのを待って準備をする。60L以上のザックにそれぞれ荷物を振り分け登山開始。いきなりの急登に息が上がる。背中に朝日を浴びながら歩くこと1時間、夜叉神峠に到着休憩をとる。杖立峠までは一旦下り登り返した。踏み跡もあり歩きやすくアイゼンは付けずに進む。休憩を取りながら歩くが何と言ってもザックが重く肩が痛い。日ごろのトレーニングが足りないのかと思っていたら皆が同じく肩が〜と。今晚泊まる予定のテン場は南御室小屋だがザックの重さにギブアップ今宵は苺平でビバーク。ここからが山行の目的雪山テント泊のいろはを教えていただいた。



※個人山行

平野リーダーに食事もお任せしていたのでメニューを聞いてびっくり「鯛の昆布メ・ピザ・ナムルと鍋にホットワイン・・・」こんなふう料理するのかとこれも勉強。豪華な夕食ご馳走さまでした。就寝前には明日の行動用の水作り。雪を鍋いっぱいにしても作れる水は少し。そこでも効率の良い作り方など一つ一つ教えて頂いた。

寒いながらも何とか一晩を過ごし、翌朝は昨夜の残りをリメイクきりたんぽ鍋にして済ませアイゼンを装着し山頂へ向かう。南御室小屋までコースタイムで歩く。昨夜の暴風もなく青空の中を登り薬師ヶ岳小屋に到着。その先の岩と雪が混じるところでピッケルに持ち替え薬師ヶ岳山頂に到達した。360度見渡す。雪をいただいた北岳・間ノ岳そして雲海に浮かぶ富士山、この景色を見るために登ってきたのだと。

下山はテント場までは足早に歩き撤収作業。食料など荷物が減ったはずだがザックは重い。支度を済ませ日の暮れるまでに下山をするため黙々と歩き登山口へ帰り着いた。天気にも恵まれたのが一番だが、それ以上に皆の協力で無事雪山テント泊が終わることが出来たことに感謝です。



静かな冬の屋久島

宮崎 美智代

山行日/天候 2月18日 晴、19日 晴時々雨、20日 晴  
 参加者 CL小川和敏、SL三品京子、今井貴朗、三田芳江、宮崎美智代  
 タイム 1日目 白谷雲水峡 登山口 11:30→  
 苔むす森 13:00→太鼓岩 13:45→登山口 15:45  
 2日目 縄文杉コース 荒川登山口 5:30→  
 ウィルソン株 8:20→縄文杉 9:45→登山口 14:20  
 3日目 本富（モッコヨム）岳 登山口 7:20 →  
 万代杉 8:35→本富岳 10:50→登山口 14:20

1日目 白谷雲水峡は美しい苔が一面を覆う幻想的な空間が広がり高低差も少なく歩きやすい。歩くとすぐに春を告げる白い小花たちに感動する。くぐり杉では木根のトンネルに光が反射し神々しかった。辻峠でザックをデポし太鼓岩へ。今回は奥岳が見渡せ最高の展望。みんな笑顔で滞在時間が長くなってしまった。



2日目 いよいよ縄文杉に。登山者はこの時期少ないと思われたが、バスが到着すると登山口はガイドと学生らしき若者で一杯に。歩き始めは比較的平坦なトロッコ軌道だが、大株歩道入り口から本格的な登山道が始まる。息を切らせながら進むと思ったより早

※個人山行

くウィルソン株に。巨大な切り株の中は10畳ほどの空洞。ある角度から見上げると空洞が♡□形に見える。私も写真を撮り♡□運を頂く。そして森の最深部へ。急な坂道と階段の連続だったが、大王杉や夫婦杉など手付かずの巨樹が残っていた。そして、最後の一踏ん張りで縄文杉が目の前に。堂々と圧倒的な存在感。感動する中、雨が降り出しお昼は少し先の四阿で取る。温かい食事にホッとした。下山時の縄文杉は雨に煙った神秘的な姿を見せてくれた。後ろ髪を引かれつつトロッコ道に戻る。



3日目 疲労が抜けきらない体に気合を入れずと登りだと言う本富岳へ。途中の万代杉も存在感満点。神山展望台の先からは山頂も見えた。喜びも束の間、ロープを伝っての登り下りの連続。山頂の大岩の下にザックを置き、太いロープを伝って山頂へ。眺めは最高、一番大きな岩に登り写真を撮る。ザックを置いた場所で昼食。山の斜面を見ると一枚岩の崖が所々に。屋久島が大きな岩の島なのだ実感した。



湯河原・幕山「梅の宴」

三田 芳江

山行日/天候：2月25日(曇り)  
 参加者；CL 三田芳江、SL 三田博、竹園清孝、三品京子、  
 國宗文、香高真奈美、森川雅子(7名)  
 タイム：幕山登山口 10:25→幕山 11:40→南郷山 12:45→  
 鍛冶屋バス停 14:00



梅の花見をしながらのんびり山に登りに、はるばる湯河原の幕山に行ってきた。湯河原駅前からバスで幕山公園へ。公園は「梅の宴」イベントで賑やかだ。菜の花や紅白のしだれ梅が咲き誇る登山口から、梅の香に癒されながら登山道を進む。クライマーが取り付いている大きな幕岩と、麓に広がる4000本の美しい梅林が印象的な風景だ。梅林を過

ぎ、九十九折の急登を登り切り幕山(625m)に到着。山頂は座る場所もない程の混雑。雨も心配で昼食もそこそこに出発。

敗走中の頼朝が池に映る自分の姿を見て奮起したという伝説が残る自鑑(自害)水の横を通り南郷山(611m)へ向かう。幕山とは対照的な静かな山頂で海を眺めて小休止。下山途中、眼下に真鶴半島、遠く初島や大島も見える絶景スポットに感激。京都嵯峨野の様な!笹竹のトンネルを抜け、ミカン畑の急坂の林道を下り、予定通りに下山。湯河原駅前で「梅の宴」の後の「街中華の宴」も楽しんだ。



も楽しんだ。

ウォーキングクラブ報告

宇津木 仁典

● 銚子グルメを食してジオパークの地を巡って 12.5km ウォーク



NO.10 12月4日(日) 晴れ

参加者：宇津木仁典、塩塚生二、岩井富士夫、新井好夫、平出正美、竹園敏明、黒住清美、國宗文、長谷川博(9名)

歩行コースは、君ヶ浜駅⇒君ヶ浜海岸⇒犬吠埼灯台⇒満願寺⇒地球が丸く見える展望台⇒外川地区集落⇒外川漁港⇒奇岩(千騎ヶ岩・犬岩)⇒銚子マリーナ⇒屏風ヶ原遊歩道⇒銚子駅(16:00 ゴール解散)であった。

先ずは驚いた！銚子電鉄電車内には、空気が無いほどに豊富な色鮮やかな装飾品でいっぱいであった。銚子電鉄・君ヶ浜駅を9:35 降車したところ駅舎内の女性から「皆さんは歩くの？この先は楽しいところいっぱいよ」と人情味豊かな人との出会いがあった。白い砂浜と青い松、波打つ太平洋を眺めながら歩行して銚子グルメを賞味の施設に着いた。

銚子観光のシンボリック的存在である犬吠埼灯台の99段のラセン階段を昇り、雄大な景色を眺めた。石畳の坂道が続く外川地区と海中の奇岩(千騎ヶ岩、犬岩)を見て、銚子マリーナ沿いから屏風ヶ浦遊歩道まで潮騒を体感したウォーキングであった。



● 都内「新宿御苑、明治神宮及びその周辺 13.5km ウォーク

NO.11 1月22日(晴れ)

参加者：宇津木仁典、塩塚生二、梶田義弘、新井好夫、吉野聡、中場義則、吉田望、黒住清美、小林ユキ子、長谷川博(10名)

歩行コースは、千駄ヶ谷駅前スタート 10:00⇒国立競技場⇒千駄ヶ谷富士⇒新宿御苑⇒明治神宮⇒神宮御苑⇒代々木公園⇒東郷神社⇒JR 原宿駅前ゴール 15:30 であった。

令和5年年明けて「安全登山」を祈願参拝に「千駄ヶ谷富士」と「明治神宮」を主要立寄り地にした、国立競技場沿を歩行して、八幡神社の境内に所在する富士講富士へ、標高約600cmの溶岩は、富士山から運び講の時節には参拝者が絶えなかったという。新宿御苑では、明治時代の風景式庭園、日本庭園、形式庭園等広大地を一周後には、明治神宮へ歩を進めた。



## 日本山岳会千葉支部

北参道から境内に入り広大な地には献木植栽樹は100年余を過ぎ生い茂り、静粛な砂利道の境内の日本一の木造りの明治鳥居に一礼、本殿へ進み参拝した。その後は、神宮御苑(清正井)を一周して境内外に出た。近くの代々木公園を周回は次回として、最終地の東郷平八郎を祀る東郷神社へ進んだ。

経路地の原宿竹下道路には若者が食べ物を手にお喋りし道路に溢れていた。誰かが「私もこの歳があったのよ……」と、また、誰かが意味深の言葉を吐いた、また、喉が渴いた…、俺もと……しかし、この若者の街にはウォーク仲間の歳に適した店が見当たらない。…さて、どうしようか? 「どうする家康」大河ドラマを観ることにしよう。

### ● 早春の花摘みと潮の香、海の幸を味わう房総南端13.5kmと西端7.5km ウォーク

NO.12 2月23日(晴れ)24日(晴れ)

参加者：宇津木仁典、松田宏也、三田博、塩塚生二、中場義則、能美博勝、長谷川博、黒住清美、國宗文、長谷川博、吉田望、小林ユキ子、柳川しげよ、茂呂よしみ、吉川三鈴、市川元澄 (16名)

歩行コースは、千倉駅スタート 10:10⇒高家神社⇒海岸通り⇒千倉漁港⇒屏風岩⇒漁港通り⇒花直売所⇒道の駅(潮風王国)⇒昼食⇒千倉大橋公園⇒白間津花畑⇒白浜⇒宿泊(民宿)着 17:06 であった。

スタート間もなくして、日本で唯一料理の神様「高家神社」に立ち寄った後は、いよいよ本格ウォークである。海岸沿いの漁港また奇岩群、路地植えの花々など眺めながら、昼食地の「道の駅」まで一寸だけ長い距離(約8.5km)をひたすら速足で歩いた。昼食後は、白間津花畑へスタートした。花畑には、キンセンカ、キンギョソウ、ストックなど色鮮やかで花摘みの人々で賑わいを見せていた。また誰かが「まだまだ時間があるので西端の『白浜野島灯台』まで歩こうよ…」誘い声がした。その誘いに少々欲張って歩きだした。

宿泊民宿には、既に支部長松田氏も到着しており、充実のウォーク後、入浴して待望の反省会である。反省することが多かったのか? 猛省することが深夜に及んだ。寝不足やら布団無し雑魚寝もいたようだ。翌朝9:30には、房総西端(洲崎地区)約4.5kmへスタートした。洲崎灯台⇒洲崎漁港⇒洲崎神社など。洲崎神社上では、「房の大山」が背後に見えた。この洲崎神社上への急登階段(160段)は、前夜の酒の効果が発揮されたのか?、記憶に残る階段となった。

帰途前に館山城に立ち寄りその歴史を学び、JR館山駅から帰途に就いた。早速、参加者からメールがあった。「南房総満喫させていただきました。気分晴々です。楽しいウォーキングありがとう。素朴で荒々しく美しい房総の海も素晴らしかったです。初めて見る房総畑見学も新鮮な体験でした。そして、想像していた以上に宴会の席も盛り上がりまして、皆様とたくさんお話ができたのはとても楽しかったです。お宿もとてもよかったです……」



## 支部山行の予定

- 山行の心得 - リーダーは、ガイドや添乗員ではありません。  
「連れて行ってもらう」ではなく、自主的な意識を持ち参加してください。



リーダーが参加者にそれぞれ役割を振り分けますので、積極的に引き受けてください。参加する前に、山域、コース、交通機関などは地図やガイドブック、ネットなどで十分下調べして下さい。地図・コンパス・筆記用具は、どんな山行でも必ず持って来て下さい。また、山行に見合った登山保険には必ず入って来て下さい。遭難救助付きの保険加入は任意ではなく、すべての登山者の義務です。体調不良者が出れば事故と同じで、山行は中止になり引き返すこととなります。日頃の自主トレーニングも是非行なうようにして下さい。

### ● 山行の申込み

申し込みは、原則として電子メールで行ってください。その際には下記事項の記入をお願いします。  
また山岳保険には必ず加入して来て下さい。

①氏名②生年月日・年齢③住所、自宅電話番号、携帯電話番号④緊急連絡先氏名(続柄)、緊急連絡先電話番号

※年齢は山行日の年齢です。計画書と違うと保険が効かない可能性もあります。

山行は定員を設けています。また、技術・体力不足、初参加で力量不明の場合はお断りすることもあります。

コロナ対策 : 密集を避け、山小屋や休憩所などではマスク着用や消毒など決められた

ルールに従うようにしましょう。

日本山岳会千葉支部

リーダーの連絡先	
宇津木仁典	支部だより紙面参照
松田宏也	
三木雄三	
三田博	
三田芳江	
藤木玄三六	
小川和敏	
三品京子	
今井貴朗	
宮崎美智代	

《難度》

W ウォーキング

A 整備され歩行2～3時間

B 歩行5時間前後

C 歩行7時間前後、一部岩あり体力要

D 強い体力、岩技術要

E 高い適応能力要、危険度大

(難度はJAC日本300名山を参考。岩・沢及び積雪期は  
難度アップとする。)



**個人山行も計画書提出を** 送信先 ; cib@jac.or.jp

山 行 の 予 定 (4月～9月)

日程	山 名	難度	備 考	リーダー	締切
4月22日(土)	登山教室①机上	教	山登りとは(開校式)	松田 三田	4月16日(日)
4月23日(日)	登山教室①実技	教	房総・富山(ガイドンス山行と共通)	松田 三田	4月16日(日)
5月7日(日)	支部総会				
5月13日(土)	君津・三舟山	A	自然学:ケスタ地形とヤマツツジ	三木	5月6日(土)
5月13日(土)~14日	奥秩父・鎌倉沢	C	沢登りで南天山に登る、テント泊	三田	4月30日(日)
5月14日(日)~15日	社山と袈裟丸山	B	アカヤシオが見頃	松田	4月30日(日)
5月19日(金)~20日	立山	D	北アルプスの大展望、岩と雪のミックス	三田	4月1日(土)
5月20日(土)	登山教室②机上	教	山のマナーと計画	小川 今井	5月14日(日)
5月21日(日)	登山教室②実技	教	高尾周辺	小川 今井	5月14日(日)
5月21日(日)	浦安地区ウォーキング	W	夢と魔法の町の周辺を歩きます	宇津木	5月14日(日)
6月3日(土)~4日	太郎山	B	男体山の北西	小川	4月25日(火)
6月6日(火)~7日	鍋割山(前橋)と赤城山	B	ツツジが見頃	松田	5月21日(日)
6月10日(土)	市原地区ウォーキング	W	歩いて古代の歴史を学ぶ	宇津木	6月3日(土)
6月10日(土)~11日	奥日光・沢ハイク	C	酒と野宿と焚火を楽しむ	三田	5月31日(水)
6月11日(日)	金峰山	C	信仰の山、五丈岩を目指して	今井	6月3日(土)
6月16日(金)~17日	霞沢岳	C	徳本峠からチャレンジ	小川	5月15日(月)
6月17日(土)	日本山岳会総会				

日本山岳会千葉支部

日程	山名	難度	備考	リーダー	締切
6月17日(土)~18日	平標山	C	平標山から仙ノ倉山へ 前泊	三品	5月8日(月)
6月17日(土)	入笠山	A	自然学：中央構造線を探る	三木	6月10日(土)
6月17日(土)	登山教室③机上	教	読図と地図アプリ	山口 三田	6月11日(日)
6月18日(日)	登山教室③実技	教	中央線沿線または丹沢	山口 三田	6月11日(日)
6月23日(金)~24日	浅草岳	C	六十里越でヒメサユリを見に行く	三田	5月20日(土)
7月9日(日)	奥多摩 (ガイドンス山行)	B	入会希望者と入会2年目までの人対象	三田	
7月15日(土)~17日	白馬岳	C	大雪渓を登る	今井	6月4日(日)
7月22日(土)	富士山昔道	B	馬返し(一合目)から吉田口五合目まで富士山信仰の名残を見ながら登る	三品	6月29日(木)
7月22日(土)	登山教室④机上	教	山の天気	松田 山本	7月13日(木)
7月23日(日)	登山教室④実技	教	奥多摩	松田 山本	7月13日(木)
7月29日(土)	鹿俣川スッカン沢・桜沢	C	日帰りで沢登り、山の駅たかはら駐車	三田	7月20日(木)
8月5日(土)	富士山大沢崩れ	B	自然学：5合目の不思議	三木	7月29日(土)
8月18日(金)~19日	和名倉山	C	テント泊で奥秩父の二百名山へ	小川	7月20日(木)
9月2日(土)	登山教室⑤机上	教	山の病気と救急法	三田 三品	8月27日(日)
9月3日(日)	登山教室⑤実技	教	大菩薩嶺	三田 三品	8月27日(日)
9月8日(金)~9日	焼岳	B	噴火状況が納まっていることが条件	小川	8月10日(木)
9月16日(土)	大岳山	C	御岳から奥多摩を縦走、岩場あり	今井	9月5日(火)
9月23日(土)	大原地区ウォーキング	W	「勇壮豪快砕ける荒波勇む若衆」を観て潮騒を歩く	宇津木	9月17日(日)
9月30日(土)~ 10月1日	登山教室⑥実技のみ	教	山で泊まる、食糧計画(山小屋泊)	松田 三田	9月1日(金)
10月22日(日)	景信山 (ガイドンス山行)	B	入会希望者と入会2年目までの人対象	三田	

※ W；ウォーキングクラブの予定が変更になった場合はメンバーに事前連絡します。  
メンバー登録はリーダー宇津木さんにメールしてください。

**お知らせ** <<事務局から>>

●**遭難対策金について**

山行の参加者がリーダーに支払う遭難対策金（200円）は、遭難事故などの緊急時のために支部で積み立てられており、救助のための支援や安全対策に使用されます。山行の保険料や山行経費などには使われておりませんので、誤解されないようお願いいたします。

●**2023年度支部総会のおしらせ**

2023年度の通常総会を下記により開催いたします。この総会において 2022年度事業及び決算報告、2023年度事業及び収支予算計画など審議する予定です。

日時； 2023年5月7日（日）午前9：10～

場所； 千葉市生涯学習センター 大研修室  
〒260-0045 千葉市中央区弁天3丁目7番7号

総会； 9：20～10：20

記念講演； 坂庭浩之さん（群馬県林業試験場上席研究員）  
「ヤマビル・マダニ対策のすすめ」；10：30～11：40



●**役員会報告**

○**12月報告** 12月21日（水）リモート（松田、三田、山口、小川、宇津木、三品、山本、甘楽）

◇山行・行事報告 11/29 子持山、11/26～27 四支部懇談会、11/27 養老溪谷 W、12/3 年次晚餐会、12/4 晚餐会山行、12/4 銚子 W、12/10～11 忘年山行、12/18 赤城山

◇山行行事予定 12/24 袋倉川、12/27～29 八ヶ岳、1/7 登山道整備、1/8 伊予ヶ岳ほか

◇報告・検討事項 支部総会日程、登山教室について、支部だより 60号の発行について、講演料の会計処理について、入退会者報告

○**1月役員会は休み**

○**2月報告** 2月27日（月）リモート（松田、三田、山口、小川、三品、山本、甘楽、今井、香高）

◇山行・行事報告 1/7～8 登山道整備、1/8 伊予が岳東尾根、1/20～21 安達太良山、1/21 高尾山6号路、1/22 ガイダンス山行（鋸山）、1/22 大野山、1/26 明治神宮周辺 W、2/5 登山道整備（房州アルプス）、2/10～12 蔵王スキー、2/23～24 千倉周辺 W、2/25 幕山

◇山行・行事予定 3/4 房の大山、3/4～5、3/11～12 登山道整備、3/17～18 妙義山、3/18 茂原周辺 W、3/21 ミツバ岳、3/18～19 本部指導者講習会、4/1～2 房総 Base 清掃ほか

◇報告・検討事項 登山教室について、支部だより、支部総会について、房総プロジェクトの会計処理について、支部特別事業予算申請について、入退会者報告ほか

●**会員・会友の動向**

<<入会>> AHさん（16989）江戸川区  
TKさん（17035）千葉市



編集後記：今年になって、対馬と御蔵島に行ってきました。対馬市は、日本で一番山の多い市だということです。城山、白嶽など、なかなか面白い島でした。御蔵島は八丈島からヘリで行きました。最も入島確率の高いアクセス方法です。島のトレッキングルートは、ほとんどガイド同行が条件です。島には、レンタカーもタクシーも無いので、ガイドさんが運転手付きレンタカーのようなものです。津田沼のヨシキスポーツさんにはSAC教室会場の提供ほか、千葉支部として大変お世話になっています。山用品を購入するときは是非ご利用して頂きたいと思います。会員になると割引があります。（小川和敏）

